西安外事学院との日中交流を通して考える
それぞれの「文化」と「観光」

【はじめに】

本ポスターでは、観光研究の学習および京都でのフィールドワークや中国・西安協定校との交流活動を通して実感した文化と観光の違いについてまとめる。観光資源を支える日中文化の歴史的深さと同時に、未来に向けての観光問題を着目した。

【観光客を受け入れるホスト側が抱える問題の事例】

京都の住民が抱える問題の１つはバス問題である。観光客が多いため、京都の住民が通勤や通学の際に、バスに乗れないことが多くある。バスに限らず、車道にまで人が溢れだすこともある。

〇問題の改善

・停留所を絞った上で主要観光地へ向かう「観光特急バス」を2024年6月から導入する（市バスの２倍の料金）

・2024年3月以降は1日バス乗車券（区間内限定）の廃止することを発表。代わりにもともとあった「地下鉄・バス１日券」（1100円、子ども550円）への利用の切り替えを進めている。

※このサイトで日本語以外の路線図も公開している（https://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/page/000001977

【泉涌寺と楊貴妃】

京都駅からバスで約15分。かつて境内から泉がわき出したことから、「泉涌寺」という名前になった。鎌倉から幕末まで、歴代天皇の葬儀を行った皇室の菩提（ぼだい）寺であることから、「御寺（みてら）」ともよばれる格式高いお寺である。唐の皇帝玄宗（げんそう）の妃・楊貴妃の等身坐像にかたどったという聖観音像が安置されている楊貴妃観音堂。１２５５年（建長７年）、中国に渡った湛海（たんかい）が持ち帰り、泉涌寺に安置したと言われており、拝むと身も心も美しくなれると言われている。

【泉涌寺・楊貴妃像】

【観光と人間】

「観光」は、様々な人が関わって成立している。その中でも基本的な分類として、ホストとゲストに大きく分けられる。ホストは観光客を受け入れる地域・社会。ゲストは観光客を指す。私たちはゲスト側として「観光」というものに触れることがほとんどである。その影響から、ホスト側が抱える問題に気づくことすらもできないのが現状だ。「観光」を理解する際には、自分自身の立場を明確にし、観光について考察しているのかを常に意識しなければならない。

【京都バス問題】

【西安協定校との交流活動を通して】

中国・西安協定校の学生との交流を通じて、強く文化の違いを実感した。関西国際大学の学生は日本の魅力を伝えた上で中国（西安）との文化融合に着目したプレゼンを相互に行った。西安協定校の学生は、日本との文化融合に触れず、中国（西安）の魅力についてプレゼンを行っていた。この違いは優劣をつけるものではなく、その国の歴史、政治、環境から生まれる無意識の価値観といえる。どちらの国も愛国精神であり、母国を愛する気持ちは嘘偽りないが、他国の文化の受け入れや共有、融合など「文化」という面においては、全く別の認識を持っていると強く感じた。

【観光の課題と将来の可能性】

日本の観光課題は、オーバーツーリズムと言われる観光地において訪問客が増加することである。例えば、訪問する地域の偏り、主要都市の観光関連施設のキャパシティ不足が挙げられる。

これらは地域住民にも被害が大きく、地域住民の生活への影響や、旅行者の満足度低下が懸念されているため、特定の場所や期間での訪問者数制限を導入し、オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策が取られている。

一方でまだ知られていない観光コンテンツがたくさん眠っている。観光の力で新しい日本文化を醸成してく可能性がある。

【おわりに】

本ポスターでは、観光研究の内容に触れ、京都でのフィールドワークや中国（西安）協定校の学生との交流活動を通して、実感した「文化」の違いについてまとめた。これらの学びを国際化が進む社会の中で、自分自身の立場を理解し、常に新しい視点で物事を捉えていきたい。